

イチジク株枯病の発生について

1 発生の経緯

平成 23 年 10 月、山元町で栽培されているイチジク「ホワイトゼノア」において、立ち枯れ症状を起こした樹が発見された。同樹は、地際部に黒褐色の紡錘状大型病斑を生じており、これまで他県で報告されているイチジク株枯病の症状と酷似していたため、宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部で同定を行ったところ、病斑部に形成された子う殻および菌分離の結果から、*Ceratocystis fimbriata* によるイチジク株枯病と確認された。

本病は、昭和 56 年に愛知県で初めて確認され、それ以降、全国のイチジク産地で発生が確認されている。近県では、平成 21 年に福島県から本病発生に関する特殊報が発表されている。

2 発生状況

- (1) 発生作物 イチジク
- (2) 発生品種 ホワイトゼノア
- (3) 病害名 イチジク株枯病
病原菌 *Ceratocystis fimbriata*

3 病徴と被害

- (1) 本病は、主幹部の地際部や主枝に不規則で茶褐色～黒褐色の大型円形病斑を形成し腐敗する。そのため、病斑を生じた側の上部の枝が日中萎凋し、病斑の拡大に伴って周囲を取り巻くと樹全体が萎凋し、最終的には枯死に至る。
- (2) 幼木では、最初、新梢先端の葉が日中萎凋し、萎凋と回復を繰り返して、次第に下葉から黄変落葉する。
- (3) 病斑部には多湿条件下で、黒色髪毛状に突出した子う殻が多数形成される。
- (4) 本病は、いったん発生するとほ場内に急激に蔓延し、成木も枯死するため、被害が大きくなる。
- (5) 本県では、健全樹と比べると短節間や葉の小型化等の生育不良症状がみられ、最終的には枯死に至る症状として確認された。



図 1 発病樹の様子



図 2 地際部の大型病斑



図3 主幹罹病部の切断面

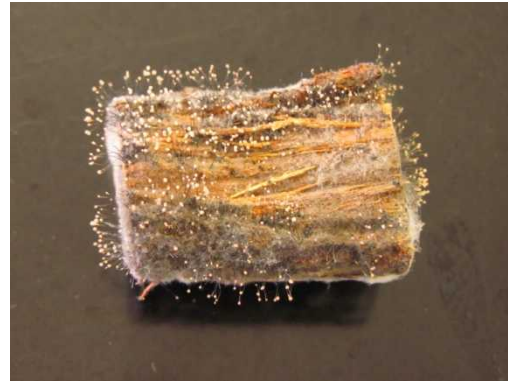


図4 病斑部に形成された子のう殻



図5 子のう殻拡大図



図6 イチジク株枯病菌の分生子

※写真（図3，図6）：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部撮影

4 病原菌の性質と伝染

- (1) 糸状菌の一種で、生育適温は25℃前後で、子のう殻の形成は25～30℃、分生胞子の形成は20℃で最も多く、胞子の発芽は25℃付近で最も良好とされている。
- (2) 土壌伝染および苗木伝染する。伝染経路としては、罹病苗木からの持ち込みが大きい。このほか、病斑上に生じた子のう胞子や分生胞子が風雨によって飛散することによって空気伝染もすると考えられる。ただし、土壌伝染ほど急速には拡大しない。
- (3) 本病原菌は、土壌表層から深さ15cmくらいまでの比較的浅い部分に止まっており、土中深くでは生存しない。
- (4) 福岡県の報告によると、アイノキクイムシが本病原菌を保菌し媒介することも確認されている。
- (5) 本病原菌は、イチジクのほかにクワ、シラカシ、クロマツ、カラムツなども侵す。

5 防除対策

- (1) 本病は苗木伝染するので、必ず健全な苗木を植栽する。また、本病発生ほ場では、穂木採取や苗木育成を行わない。
- (2) 発病を認めた場合は早期に抜根し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 発病樹の根部や表層15cmまでの土壌は本病の胞子で汚染されているので、汚染土壌を除去し汚染されていない土壌を客土する。
- (4) 発病樹周辺の健全樹に対しては薬剤防除を行う。登録殺菌剤としてはチオファネートメチル水和剤またはトリフルミゾール水和剤の500倍液を定植時および5～10月（ただし、収穫30日前まで）の間、1ヶ月間隔で1株あたり1リットルを灌注する。ただし、すでに感染している樹には効果がない。

表1 イチジク株枯病の登録薬剤（平成23年11月9日現在）

薬剤名 （農薬の種類）	使用時期	本剤の 使用回数	希釈倍 数	散布液量および 使用方法
トップジンM水和剤 （チオファネートメチ ル水和剤）	定植時および5～10月 （但し収穫30日前ま で）	6回以内	500倍	1株あたり1リッ トル灌注
トリフミン水和剤 （トリフルミゾール水 和剤）	定植時および5～10月 （但し収穫30日前ま で）	6回以内	500倍	1株あたり1リッ トル灌注
ルミライト水和剤 （チオファネートメチ ル・トリフルミゾール 水和剤）	定植時および5～10月 （但し収穫30日前ま で）	6回以内	500倍	1株あたり1リッ トル灌注
トップジンMオイル ペースト （チオファネートメチ ルペースト剤）	収穫後から休眠期	3回以内	原液	塗布

注1）農薬有効成分の総使用回数に注意して使用してください。

注2）チオファネートメチル剤の総使用回数

14回以内（塗布は3回以内、灌注は6回以内、散布は5回以内）

注3）トリフルミゾール剤の総使用回数

6回以内（散布は3回以内）

●この病害に関するお問い合わせは下記まで

宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号（宮城県仙台合同庁舎内）

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/byogai/>

宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地

TEL 022-383-8125, FAX 022-383-9907

http://www.pref.miyagi.jp/res_center/